



鳳中



表合中

川と官舎



師事するも... 麓雲の如脚ふゆひ
まね哉妙術を
ふれくぬとそめ

いーるさあぬむく旅のうさげ

葉落

中々産とるも子作の才もふふ

つよ

あまのれ揚屋の嘘れありはふて

怒角

かしく健も常の孺子抱れ

路之

山

祈禱も秘密秘傳のありき

非路

ふくれまの谷の安き村とく

百先

折ぬの片竹ふくし月明り

文難

詩文の秋と冬と乃禊

忠告

名流 口承混雜

栗山よしの まきやまよしの の波あり

楚諾

梅うき香や宵なくおのひとく

兎斗

高やよふ月のまはれそ女帝と

曾白

初節のやちりまね花より啼おひ

桃溪

是はや浮世の浪とありそつゆ

虚白

柳まき新川よりけしき

只皓

挿つて時をゆとの柳のれ

仙花

むしやよ中とくそ所終子のあ

斗立

むのせお扇をれもぬきりひ

竹母

月きよむそ牛もありとるをよひ

栗

深くや柳のやちりもむこ

江花

夕暮の曙さきりやおの林 飲育
 きんほやなも尾上の禱の夕 而立
 松のし多いおしきるまのい 吐月
 捨てあるものともてま生体南のふ 南南
 よふそはらふふふをた柳のれ 日表

下川をこ

園山万里のそ遠公社にて

そのらのちううやほんごのあ

漢雪

はせりれまの目まく延やの 山
 妻の下神くくくま毎子 市柳
 おいむくくくま毎一字の 十景
 あとまきと幸院の廟ちやよかふく 可考
 掛け掃子も床の正西 松高
 入るるね教もまよく月の林 如廟
 山山いふおれく小田の州あけ 寺

名録

鐘由やまのあり張連ひかき
 幾くそよもきつ〜と川と橋の声
 見え〜とて重なり〜と清あり
 常〜と玉露さぬぬも田極ふ
 岸やとやん多〜と別れ〜と
 月影〜とかり〜とて静ふあり

市柳
 可考
 如扇
 松高
 十景
 漢書

月新

鐘生り〜の聲と〜と〜と〜と

常なる下流〜の流多〜と折〜
 岸もやの芽か〜とや〜とのぬも〜
 竹の〜と〜と〜と

壺江

常なる下流〜の流多〜と折〜
 岸もやの芽か〜とや〜とのぬも〜
 竹の〜と〜と〜と

常なる下流〜の流多〜と折〜
 岸もやの芽か〜とや〜とのぬも〜
 竹の〜と〜と〜と

常なる下流〜の流多〜と折〜
 岸もやの芽か〜とや〜とのぬも〜
 竹の〜と〜と〜と

常なる下流〜の流多〜と折〜
 岸もやの芽か〜とや〜とのぬも〜
 竹の〜と〜と〜と

凡月屋の暖簾を引くもさきさき
其梅

きよふゆあういぼふりうい
有来

各派

今の子孫をこころ岩片
其木

のひねり何くあう榊
梅之

山ややといつれぬ一と地
其梅

足さう一啼やむもあり初地
山亭

月よあまはと渡あつて梅の恋
有来

秋の月よぬえてかうよ離れ
梧子

小糸乃折くあつて梅の恋
壺江

長良

むのーき鶴先師のあれそ途のさり
ゆりーんー

六河

千里のその跡追ふそのさし

ねも柳りやまう水きふ
つ小

情ふあふ廟の音のまゝよ
達藤

粹なる浮世の神はほろけし 落丸

かゝ換のよも有りまらよめまゝくしと 凡荷

祖父の居し居しよまゝくしと 和琴

まゝくしと後の月こと打たれしと 里叟

おのづかしく種も種十分 南保

月所

赤丸略

梅香

そ途ふ好なる巨熊もくまもくまき

陽をくしとほろけの移り来し づふ

恍惚の神を狩よんといれくしと 互吉

書あやまりれ多しと ちや 波綾

和くしと按摩よ背中むきと居り 呂文

志川こゑるすゝかゆふと微塵も 分翅

名月も近よるえのおこやふと 汗梅

赤くしとくしとゆふと居り 月 風あり

名源

ころちのや 幕のさよひきりくれ 六所
 きこしきよは 後いのみささく 如乾
 出のうらや 礼も別なのおろし 蓬萊
 元心いさち くりくも又 和琴
 臆とそ月もさほほよきまよのう 風荷
 ゆる丁やと 都あふるよる一あし 柳雲
 所やしやまよそとくははま又 風水
 陽光のや 旅よき山氣の傳えれ 落九

山さの氣 森起ん、鈴子の声 波孩
 きれよまよの 岸の 旅一 来ひ 了叟
 ちねく様うく ねさるて 冷し時 分翅
 夏このそこ けいし 海も揚をく 存 昌文
 まるぬや 鞆のまき 金のを 西一 南保
 古いのし ぼやて せし 新おひ 戸梅
 こくちちんが けくちんを ねり 啼く 陸 五書

小西郷

九

我師を遠のけしと都かよ送るて

唯兮

けつゆをまのの中よみまを乳

ちるもろりれふも自り
つ小

去んて離の一回より山を
五峰

まをちる物へくを
清扇

ちるもろりれふも自り
巴江

けつゆをまのの中よみまを乳
子

谷津

鬼も角あつて踊水盃の月
唯兮

お芳や清とまのこ峰のこ
巴江

ちるもろりれふも自り
清扇

けつゆをまのの中よみまを乳
五峰

改田

去遠の月をまのこ峰のこ

柳渚

けつゆをまのの中よみまを乳

ちるもろりれふも自り
つ小

浜一平の千鶴と膝も娘いふ

松芳古ききしもろ久神候 川仙

ちよんときんてんあめりの物しや 海島

澄ん神の成りし水ぬ法 里凡

糸や角おとむるるよまもし作きやよ 茂新

くさしきふくしき花あおおふ 子

谷津

夕影やうねりの中の旅りし 茂新

茂るよの産物しつゝなつ月 舟和

鳴く鳥かききし山くやあまの志 里凡

よふ柳やふも美人やまもい 海島

夕雲のむらりし物、精の舞 川仙

き魚よ日何とくくいふか味 柳原

舟下

送ふ

揃してきよゆるしの花くしを 柳原

神をそはの十徳一と凡 山

ゆくの山の去年よこしは似て 卜四

谷もあまよちああち 白二

おまゝの月のうらみ 子辰

うらみあや丁ばらん 和石

名塚

むしえよをち形り 帛 難 初花

低ふはくこゝろ 心 一 きのほし 吟雨

初花を催すあぬいくよ骨折れ 和石

まじや 孤味や味や房の首 白二

獲りけり 嘆きやん 梨のむ 流た

月のあけり 隠れ上もやちま 新子 丁阜

まるは 一 谷をる 房もあつたを 呂舟

是の 一 ひと 年より 生る根 十爪

梅の 一 ころもれ ころ 在所 卜四

小澤正

鳥籠とる里の跡とをくゞ候ふ

八居

今やどの雲もをくゞてそのまゝに

水も日影の影もくゞりて

つ小

高し山用の沢山のまゝのまゝに

と本

取世未斗ふの意、おま昌

呂彦

それ落しあををかりのまゝ月お

柳波

つゞく流の跡もくゞりて

お南

名塚

あゝ藤や糸を大集ふの氣にあて

お本

まのやうなまゝに馬のと

柙波

梅の香もくゞりてそのまゝに

可之

茶の志もくゞりて、睡る際

お南

雨のまゝにまゝに谷おやねひさ

呂彦

細おれくゞりて茶の香もくゞりて

八居

お南

れおれくゞりて茶の香もくゞりて

あはれきつらき事よとて送る

杜若

そ乃も知れ安うん 田うら特

蕙まきとてとれあはらちち

山本

お百ふしきるうねる日成るいふ

呂杉

去のふし解ふ乳母ふれいそ

老曉

能くいふてしちあてし麻射者入

古亭

傍し仕もし紙層の山

貞雄

格格の室も難傳れ夕月お

みよ

早ねさちるの草うきよ

早

谷原

啼や稚子さるる一よんのまぢらる

呂叔

二ころんくらそとそし草の真

みよ

うらひあやあやんぬるをまよへまお

老曉

え癖もも水も様のおつ日ふ

老曉

房流くけ旅やしえへまら雨

古亭

号や梅もいもゆ義の中

杜若

粟本

都外まで行くの所脚と云きく
ちりていそいそいそ

かみなり

舟はつて何まよき送る松本

松本

ぬり向ふやまいた木の葉糸

と味 穂ももとの節のまもり

かき出さすはまきこお松

口へくまきしん、耳のまもる

お茶うりとの居合やぶ

娘はももよおまのまも月お

春の野まもりお松

名録

さきもや松あまごもやあ

ぬりまもり向ふけも松松

あまのまもり一は春の月

世の中はまもり一はあま

あふやうに月あしらで芭蕉うま
新島やまはくしと掃く初
松南

富永

如月の日暮はあつたけの
こぼはきくのこゝろ

みづのうらみ

たつ

清くんまふ山つらなれば

さうらふもさうらふも
暗々
つふ

二めかるとえふよまを
あぶ

在新一茶屋の娘おきり
里十

まうくと現世のりも地蔵
海子

後の以子梅をりむや
之中

夕月もお月とゆふ染此片
琴指

有るんおととと丁の初夢
寺

名塚

梅雨も水も百足掃出ん
海子

馬くはも掃くもあのみ
琴指

うき小舟のまよはれてくねふ螢 寄都
小娘の一年もくなくや田舎狩 里十
岸や動くはふりくく居る 之中
よ舟や一まの風の細小路 丸紙

閑

あまのあま

あまのあま

はるのーむのそ途はけ日和

さるまののまをた

あまのあま

あまのあま

きんくはるのまよはれて 以考
まゆくの痺ぬはちとらぬ 如羅
白雲の葉谷んくける下り舟 鳥跡
祇まのー免の葉やち鞠や 素心
お水のあまのく乾く月の照 白星
出のりくまはまはふ久助 子

閑

あまのあま

乃の道も見えぬおとよの宿も人 五茗

山をなすにたのむまま 山

いやでかきと二日歩も足あらず 山

小まがりまりにまの原に 壺中

所の名もあらずと似ぬ義の下 壺中

山もせよとまの原に 壺中

月よもいと多あらずと可なり 壺中

まんとあふの跡 壺中

名録

掃屋もまきと水もほととぎすふれ 茂朝

まきと水もほととぎすふれ 茂朝

お起の一羽 鶉也 鶉乃まお 以考

山もせよとまの原に 壺中

おの原もこの水もまの原に 壺中

山もせよとまの原に 壺中

涼しくもまの原に 壺中

入院くあらこらとるふに二年

松育

肩いの松乃枝下まお

石曉

玉ころれ産きくくと氣の月

水

菊林とて美格授そわ介

李泉

名録

同じくあふのまおかうーまの氣

素陽

冬一羽鳥の追ひり枯れ家

松育

及あきねふふこく水川水

李泉

縁のその名やきん枯屋

冬甫

何氣ちうよ向まのあある名をゆい

石曉

可々まお一指んや水いゆり

石泉

風やきくこくこくまお

水

金

おしるまおりそまお

白兔

まきく破やん旗のりく

ま風まうあある

水

つるつるの壺の跡の...の...の... 侯老

ちち...の跡... 小松

高き...の跡... 徳川

積の...の跡... 老代

名跡

腰...石...の跡... 徳川

も...花の...の跡... 徳通

此所...の跡... 小松

ま...の...の跡... 老代

跡...の...の跡... 小松

名村

...の...の跡... 小松

...の...の跡... 小松

...の...の跡... 小松

...の...の跡... 小松

...の...の跡... 小松

いつくもふ 振るもらふ心て忘の月 乙磯

よるがけいよるがけの冷る 里立

名詠

福をのゑを引てんよう藤の夕 津乙

林のうら中 霧もよけふる程い ぬ語

晴陰やをい免てい多川ちよとき 乙磯

谷月やおいあはる 若のおちうく 里立

まや夏のをちうれあー 林日和 李吟

ふ〜り 吾哉ちひい〜り〜りす ^上 乙磯

所知

い 吾世のそとと 郊がよま〜りして

東海

あひい言ん 掃の抑ーやうて又

又ゆりまきて 素のあふよ 乙磯

こ月のうらま 物のゆるやのよ 藤信

きとけのくれ万日回向 茶玄

初月の名う〜お袋の思ひう 年二

ふくーきれ丁の初夜 浮世

名録

山原焼の代り暮らしては木の芽の 標記

ふふきききの消るもさきまはあとの 立柳

あふふふと初は端のれ花のいし 文侍

陽きや端く魚の海もはるの 茶太

あふふふと暮らしてはく様ふふ 浮世

あふふふと暮らしてはる雪花ふ 演芝

あふふふと初瓶ふふふふふふ 浮世

あふふふと馬ふふふふふふ 舟二

あふふふとあふふふふふふ 山原

苗木

あふふふとあふふふふふふふふふふ
と都ふふふ
ふふふふふふふふふふ

あふふふとあふふふふふふふ 梅屋

あふふふとあふふふふふふふ 浮世

かいらい 孫のまら此名うきとらけ 貞孝

古字の種乃 結縁よりぬ 梅雲

がれくにあふちん 栲の投より 存良

おしせぬ 浴具とそれとあはれ 素子

うらたて 月見の宮乃 下程ひ 暎山

色をもくろん 松志をい 松翁

名塚

斗あくらり 事ぬ乃とくく 玉柱の家 奇心

深心乃 是ちれいん 栲標之れ 貞孝

幸と森より 取一 流如丁 暎山

るおれ も 篠く 乃と ちあめれ 梅雲

名月や 猪追ひ ちゆうの 栲之 存良

いつれく 急のちぬ 事おふれ 鹿山

中身 厚好く 人乃 名林の 月見ひ 唯心

初月や ぬくぬ 松の 栲新 素子

鉢 至ち ちれく 仙雲 乃と ちぬ 素子

とらこもる氣もほくは林の山 松荷
 雲のさかほ山と高くおほく 梅原
 ねんやあもよ水く山の間 長尾

又升

あま略

自松坊

み梅も旅出のまればぬ日和 山小
 美さくふうくの公あまの 山小
 傾初の子と廊はまをちて 東和

難波をよみよ伊勢のくま 筑之
 秋形より移る信のくまくと 文見
 樽垣のくまの謠連中 阿久
 松結心まゆりよち居るおの月 江尾
 女五りのまゆり信浄 長信

名塚

さるてうくすらうあくし藤のあ 阿久
 よ木つる名をいひ返す 文見

是ハ一田毎の亦ハ川の月 東和
 新嘉和日まけ寝いしつりれ 鏡
 落みちや柄枚布あふの底 江た
 新嘉の包こあるむちや海とら 里弁
 草木のむちや雪の餅れ指のころと 里牧
 山一の海の中うもまきまき 長活
 草木のむちや何れともまわらぬ 和乙

中津川

中津川の霧かよそ途遠送りまきと
 山あふ山まきと山まきと山まきと
 千里一丸れ連よ 言 山小
 草木揃ふくまねあふれまきと 芹因
 あふれね切しめ汁まきとまきと 園之
 きののむちや「氣さし」林傍も 後後
 むさき一のあふ仕入まきと 柿二
 飯のあふ一のころまきと月夜の氣 里仲

壺のそとふらふらぬセク

壺

名録

そははとうまのこまのり花

芦田

風やゆれとすま月影

里仲

たのきれやせりり水てきや家の梅

梅二

端の園の木むまにまもむまをふ

羽考

ふれやまおきまふまのり花

園三

初まをゆれとくまふ新ま

海橋

ゆくとおとすまふまあり初め

壺有

花のこふとふとありの枯れ

楚香

ゆれりんれとありまふまふま

和船

